草の実分校　実践報告

成長過程における拒否に関する取り組みについて

【学　年】高等部２年生
【身体面】脳性麻痺、車イス移動が基本で四つ這いや歩行器を使用している。未熟児網膜症で視覚は活用していない。
【生徒の様子】発達と運動の高次化理論：概ねⅣ水準（パターン知覚水準）新しい場面でも対応できることが増えてきた。感覚過敏があり診察や散髪などが苦手であったが、過敏を軽減させる取り組みの成果があり、一例としては散髪がスムーズできるようになった。パターン的な認知課題を順調に進めてきたが、徐々に課題をすることを拒否したり、車イスから学習イスへの移動を拒否したり、いつもできていたことに対して拒否が出るようになってきた。
【指導について】パターン知覚水準あたりから見られる『からかいの拒否』であると仮定し、パターン弁別課題の横への広がりを更に充実させることが必要であると考えた。教材の工夫については、OT のアドバイスを取り入れて実践を行った。また、物を介して柔軟に対応できるようになるために、後に対応知覚水準で扱う課題ができるようになることを意識した。

●作業療法士（OT）への相談内容
スムーズにスプーンとフォークを分ける活動を行うにはどうしたらよいでしょうか？

作業療法士（OT）

●アドバイス
・形の違う箱に分けてみてはどうか。
・肩から体を大きく動かす粗大運動を取り入れると手先の器用につながりますよ。
（粗大運動は、運動につながるため）なかなか手を挙げる活動は日常生活にはないため、意図的に取り入れてみてはどうか。

パターン知覚水準の段階に適した教材で主に学習するが、対応知覚水準の課題も１個から２個は取り組む。

片方の箱を変更

スプーンとフォークの先を指で触り分けて、指定された箱に入れることが7～8割程度できるようになった。

人に合わすことを意識した言葉がけを行う。（できた時には褒める）

マットを床から持ち上げて運ぶことができた。(粗大運動）マットを落としたい気持ちを抑えて､「どうぞ」と合図が出るまで持ち続けることができるようになった。

←合図まで待てない様子

本人は、コマを落下させて音を楽しみたい。そこで、望ましい行動になるために、間違わないように、さり気なく手伝い「できた！」で終わる。

コマで遊んだり、落下させたりすることはなくなった。手で次のコマの位置を確認するようになり順番にスライドできるようになった。

スライディングブロック

●成果
拒否が減り、以前のように課題に向き合うことができるようになった。指先で教材に触れ、形や感触、数の情報を確認できるようになってきた。物を落そうとすることはまだあるが、気持ちを切り替えることができている。授業中に机から物を落とすことはなくなった。

●今後の課題
「からかいの拒否」については、少なくなったが完全になくなったわけではまだない。卒業を見据えて、まずはパターン弁別の横の広がりを主な取り組みとしつつ、対応知覚水準に到達することを目標としたい。
過敏に関しては、軽減はしてきているもの継続して取り組むことが重要である。触覚を活用して弁別しなければならないので、過敏の軽減は優先課題である。個人差はあるが、３年～４年は取り組みが必要で、症状が軽くなったように見えても止めてしまうと、また症状が現れることがある。

※パターン知覚水準、対応知覚水準については、HP の教材・教具ライブラリー内の発達水準の説明と教材の紹介を参照